

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

インド サイダペット地域開発プログラム(IND-194854)



ジーヴィタちゃん(中央、10歳)と兄のデヴァラジ君(左、12歳)、母親(右)

チャイルドストーリー

収入が向上し、 将来に夢を持てるようになった ジーヴィタちゃんの家族

サイダペット地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすジーヴィタちゃんは、部屋が一つしかない小さな家に住んでいます。父親は障がいをもちながらも仕立て屋として一家を支えています。月収は5000インド・ルピー(80ドル)で、家政婦として働く母親の収入を合わせても苦しい生活が続いていました。

しかし、ジーヴィタちゃんがワールド・ビジョン(以下、WV)のチャイルドとして登録され、支援の一環として、父親はADPから電動ミシンを提供されました。「以前よりも多くの注文を受けられるようになり、収入は以前より1000インド・ルピー(17ドル)増えました」と言います。母親も、貧しい世帯の女性が集まり共同で貯金する自助グループに参加するようになりました。貯金額は徐々に増え、女性たちは緊急時や副業を立ち上げる際に、順番にこ



電動ミシンを支給してもらってから、以前より多くの注文を受けられるようになり、収入も向上しました。

障がいを持ちながらも仕立て屋として一家を支える父親

のお金を使っています。また自助グループは、家族に最も影響を与える母親たちに、栄養不良や感染性のある病気について理解を深めてもらう場ともなっています。

ジーヴィタちゃんは子どもクラブに所属し、子どもの権利や児童虐待から身を守る方法を学びました。兄のデヴァラジ君も子どもクラブで救急セットをもらい、怪我をしたとき自分で応急手当ができるようになったと言います。

ジーヴィタちゃんの将来の夢はお医者さんです。ADPが家族に収入向上を支援し、保健・衛生に対する知識を普及させることで、子どもたちは一步一步夢へと近づいています。

栄養プロジェクト

5歳以下の子どもたちの栄養改善と、保健サービスの向上に取り組んでいます

支援地域の若い子どもたちにとって最も身近な医療機関は、インド政府が運営する就学前教育センターです。ここでは、保健・栄養・教育を含む子どもの総合的な発達を支えるサービスが無償で提供されています。2014年度は行政機関と連携し、就学前教育センターのスタッフに栄養や保健についてのトレーニングを実施しました。また地域の保健ボランティアが、センターで適切なサービスが提供されているかモニタリングするとともに、同じ地域に住む5歳以下の子どもや妊娠中・授乳中の女性に対し、必要に応じてセンターでケアを受けるように啓発をしています。

さらに、5歳以下の栄養不良の子ども325人が栄養改善プログラムに参加した結果、体重が増え、栄養状態が改善しました。



5歳以下の子どもの体重を測り、栄養状態を確認する就学前教育センターのスタッフ

 **325**人の子どもが栄養改善プログラムに参加


経済開発プロジェクト

子どもたちが健やかに成長するためには、親の収入の安定が不可欠です

支援地域の中でも、特に貧しい世帯の収入向上を支援しています。2014年度は20世帯を対象に、小規模ビジネスを行うための縫製のトレーニングを行い、ミシンなどの機材を支援しました。また、17の自助グループに、238人のメンバーが参加するようになりました。メンバーはグループとして貯蓄し、医療費や子どもの教育費などが必要になった際には、低利で融資を受けることができます。どちらの活動にも女性たちが積極的に参加しており、それぞれの家庭で少しずつ生活が向上し始めています。



ミシンの提供を受け、縫製の仕事に活用している地域の男性

 **20**世帯に縫製のトレーニングを実施


指導者育成プロジェクト

持続可能な支援のため、住民自身の自主性の向上を目指しています

2014年5月、「子どもにやさしい地域」をテーマにしたイベント(ライフ・スクール)を5日間かけて開催。5~17歳の子どもたち2,555人が参加し、子どもの権利やリーダーシップについて学びました。開催にかかる費用の一部を住民自身がボランティアで負担するなど、自主性が芽生え始めているのが見えたことが、最も嬉しい出来事でした。また、8つの「子どもクラブ」が誕生し、約200人の子どもたちが参加。メンバーはスタッフやボランティアの指導を受けながら、週に2回集まり、地域の課題などについて話し合っています。



リーダーシップについて学ぶ女性たち

 ライフ・スクールに**2,555**人が参加

保健プロジェクト

子どもたちの健康状態と、衛生環境の改善を目指しています

2014年度は、支援地域の初等学校から上級中等学校までの26校で正しい衛生習慣についての啓発イベントを開催し、約5,000人の子どもたちが参加しました。イベントでは人形芝居や劇を通して、健康や手洗いの大切さなどについて楽しく学びました。ある学校の教師は、「このイベントの後、子どもたちは食事の前やトイレの後に手を洗うようになり、爪を切って学校に来るようになりました。病気にかかる子どもの数も減っています」と話しています。また、思春期の少女たちを対象にしたワークショップを行い、月経や妊娠・出産、早婚の危険性などについて学びました。

これらの活動の結果、大人たちも健康には衛生的な環境が大切であると意識するようになりました。多くの人がゴミを決められた場所に捨てるようになり、屋外で排泄する人が減少するなど、少しずつ変化が表れています。



就学前教育センターで手の洗い方を学ぶ子どもたち



衛生習慣についての啓発イベントに**5,000**人が参加



支援地域の女性のインタビュー

貯金の大切さと自立心を学びました

Q. 家族構成を教えてください。

運転手をしている夫との間に2人の娘がいます。

Q. 子どもの頃学校に通いましたか。

12年生まで通いましたが、父が亡くなって経済的に厳しくなり、高等教育は受けることができませんでした。

Q. ADPの活動に参加してどのような変化がありましたか。

私は女性たちの自助グループに所属しています。グループのメンバーは共同で貯金し、そのお金は必要とする時にメンバーに貸し出されます。この活動によって、貯金の大切さを学びました。以前の私はバスの乗り方さえ知りませんでしたが、自助グループに参加してから、女性も自立心を持って外に出て、収入を得ることが大切だと思うようになりました。今では行政の担当者に会いに行けるくらいの自信ができました。

Q. 今の夢を教えてください。

以前は家族や子どものことがただ心配で、何の夢も持っていませんでした。今は資格を取って政府機関で仕事をしたいと思っています。



ADPの保健ボランティアとして活動するスングリさん(30歳)



Q. ADPで毎日どのような仕事をしていますか。

朝はまず地域の子どもたちが学校に行くのを見守ります。また、退学してしまった子どもがないか調べます。その後、家にいる母親たちを訪ね、栄養不良の問題や子どもたちの健康についての相談



サイドペットADP プラダン スタッフ

に乗ります。夕方は、子どもクラブに参加します。私の今の主な仕事は、子どもたちを保護する体制を作ることです。

Q. 仕事上で気を付けていることは何ですか。

地域のリーダーたちの中には、自分たちが利益を受けることを望む人もいますが、私たちは彼らの要望に従うのではなく、最も貧しい家庭により手厚い支援を届けなければなりません。そのため、地域のリーダーたちと話し合い、私たちの活動について理解してもらうよう心がけています。

Q. WVで働く原動力となっているものは何ですか。

元気に育っていく子どもたちを見るのが私の原動力です。

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



子どもの集会で正しい価値観について学んだ子どもたち

会計報告

IND-194854

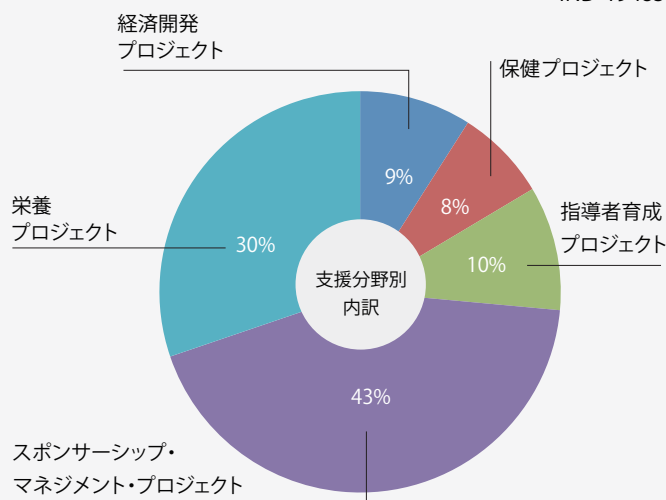
収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

プログラム支援額

チャイルド・スポンサーシップ	27,218,730
当期支援額	27,218,730
前期繰越金	1,837,862
プログラム支援額合計	29,056,592

プログラム支出額

経済開発プロジェクト	2,588,297
保健プロジェクト	2,123,498
指導者育成プロジェクト	2,871,223
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	12,415,024
栄養プロジェクト	8,662,720
プログラム支出額合計	28,660,762
次期繰越額	395,830



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
 電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)
 FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
 e-mail：dservice@worldvision.or.jp